

コロナ禍における コミュニティファーマシーの 役割と地域連携

～ここから未来の薬局を考えてみませんか～



株式会社ファミリー厚川 厚川薬局
代表取締役兼管理薬剤師 厚川俊明
常勤薬剤師 川端なつみ

目的

新型コロナウイルス感染症において当薬局が携わった事業

埼玉県PCR検査等無料化事業に参加

2022年1月から2023年3月までの14ヶ月間

埼玉県民在住者はPCR検査、抗原検査が無料で受けられる（条件あり）

（現在は自費によるPCR検査継続中）

抗原検査キット販売（現在も継続中）

ラゲブリオカプセル、ゾコーバ錠等のコロナ治療薬の調剤、投薬

を通じて、
薬局の役割、地域との連携の重要性等を感じた症例
を報告する。

（現在も継続中）



埼玉県PCR検査等無料化事業



感染リスクが高い環境にある等**感染に不安を感じる無症状の埼玉県民の方**は、県内薬局・ドラッグストアにて無料で検査を受けられるようになりました。

以下3つ全ての条件を満たす場合は、**県内の**薬局・ドラッグストアにて無料で検査を受けられます。

- 1.発熱などの症状がないこと
- 2.感染に不安があること
- 3.埼玉県在住であること(埼玉県在住であることがわかるものをご持参ください。)



①自分が無料検査の対象になるか確認

『1.無料検査の対象者』で自分が対象であるかご確認ください。



②検査できる場所を探す

『3.実施事業者一覧』で市町村名を選択してお探しいただけます。



③必要な持ち物

氏名、現住所、生年月日が判別できるものをご持参ください。
(例、個人番号カード、免許証、保険証etc..)



④検査場所で検査

検査の種類
(採取は自身で行います)

	使用する検体	検査結果判明	有効期限
PCR検査	唾液	1日~2日後 メールや郵送	採取日+3日
抗原定性検査	鼻腔ぬぐい液 (鼻の入り口から2cmほど)	15分~30分 その場で手渡し	検査日+1日

⑤検査結果通知書を使う

有効期限をよく確認のうえ、必要な場所で提示もしくは陰性を確認してください。



万が一「陽性」の結果が判明した場合は
速やかに医療機関を受診してください。



《検査方法》

薬局内での感染拡大の防止を考慮し、基本的には自動車での来局を想定したドライブルー方式でPCR検査を行った。

徒歩、自転車で来局した場合も想定し、別棟に検査室を設置した。

検査室による検査



ドライブスルー方式による検査



理由

この事業で薬局が携わる意義は、結果を伝えて終わりではなく、体調管理、同居家族の感染予防、仕事、学校への復帰、再感染の予防等、その後のフォローまでが大切と考えたため

方法

対象症例

- 埼玉県PCR検査等無料化事業：**432症例**
(無料PCR **320症例**、無料抗原検査**112症例**)
- ラゲブリオカプセル等の緊急訪問薬剤管理指導：**37症例**
- 抗原検査キット販売：**1777個**
新型コロナウイルス、インフルエンザ同時キット販売：**28個**

から検討

かかりつけ薬剤師として重症化リスク患者を救った例



【患者背景】

M・Kさん80歳

既往歴：**狭心症**（4回のカテーテル手術⇒バイパス手術）

高血圧症、2型糖尿病、花粉症

発熱、咳嗽の症状があり、TクリニックにてPCR検査⇒**陽性**

フルティフォーム125エアゾール 1日2回 1回1吸入

メプチンエア-10 μ g吸入 1本

が処方される

【経緯】

既往歴から**重症化**する可能性があると考えた。

ラゲブリオカプセルの処方提案のためにTクリニックに連絡する。

Tクリニックは**ラゲブリオカプセルの処方経験がなかった**ため処方されなかったことが判明。

適格性情報チェックリスト、同意文書を説明しての同意書を患者さんからとる旨を説明し処方に至る

【結果】

夕方自宅へお届けし服薬指導。その日のうちに服用。

翌日、発熱、関喘息症状改善に至り、その後も後遺症もなく改善。

患者さんからの報告、助かったよ!!ありがとう

就労支援事業所の出会い

令和4年1月21日に初めて就労支援事業所Aの責任者:Y・Yさんに抗原検査キットを10キット販売したところから始まる。




就労支援施設が3施設があり、クラスター怖いので積極的に検査していきたい。
通所の方は、全職員行うようにしました。

就労支援施設A責任者 Y・Yさん

その後、7/30に20キット、8/5(100キット)、9/2(50キット)、9/21(50キット)、
9/30(75キット)、10/31(75キット)と継続して購入される。

【連携】

就労支援施設Aの さんが新型コロナウイルス感染(頭痛あり、発熱なし)、ラゲブリオカプセルの処方がある。

《自宅療養中》電話にてラゲブリオカプセルについて説明

「本当にいろいろ丁寧にすみません。安心します」

《回復後》

「症状は喉の不調くらいで、薬も効いたのか順調に回復しました。薬について相談させていただいたので安心して飲みました」

その後もメールのやり取りが続き、いつか連携して就労支援施設で作った物でコラボイベントやりたいですね。

その後、Y・Yさんは他界してしまいました....



日頃の医療機関との連携によって小児患者が受診できた例

【患者背景・結果】

当薬局でのO家族のPCR検査の結果

O.Tさん(32歳)⇒陰性

O.Yさん(31歳)⇒陰性

O.Kさん(3歳)⇒陽性



小児1名が陽性となるも、受診できる医療機関が見つからない

- ・かかりつけ小児科⇒PCR検査の確定診断実施せず
- ・近隣の病院の発熱外来⇒連絡するも予約が全く取れず

小児で発熱症状も出てきたため、不安になった保護者の方から相談を受ける

【連携】

日ごろから連携があったSクリニックに電話

(本来は発熱外来はかかりつけ患者のみしか受け付けていない)

看護師長Mさんに交渉⇒医師へ詳細を伝えてもらう⇒診察、治療を承諾

検査により地域の方の処方箋に繋がった例

【Y.Kさんの場合】

PCR検査をご夫婦で受ける

ご夫婦は無症状であるが、同居のお孫さんがご近所で感染者あり、感染不安にて検査実施

【結果】 夫:陽性 妻:陰性

【連携】その後、この検査を切っ掛けに定期的に高血圧症、下垂体腺腫の処方を受けるようになる

連携により検査に至った例

【学校薬剤師からの連携】

I先生(57歳)⇒学校薬剤師のS中学校の元養護教諭(現在T・N中学校にて養護教諭)

養護教諭の研修会にて陽性者がでたため、感染不安(熱、咳等の自覚症状なし)。

同じ研修会に出席していたM先生(57歳)(KT36.5、熱、咳等の自覚症状なし)とともに

当薬局にて検査実施

【結果】

I先生:陽性⇒かかりつけ医受診⇒その後完治

M先生:陰性

結果

今回の事業では、たくさんの方からの問い合わせを受け、実際に検査を行ってきた。

結果をお伝えする中で、陽性が出ててもどうしていいかわからない方が多くいた。

- ・重症化への不安(高齢、基礎疾患あり)
- ・周囲に知られたくない
- ・家族内感染の不安
- ・受診するべきか
- ・診察してくれる病院はあるか
- ・仕事、学校はどうするか？
- ・療養期間、復帰できる時期
- ・再感染への不安

結果通知のほとんどをメールで送っていたが、陽性の方にはできるだけ電話で連絡をし、少しでも不安を取り除けるように話をし、時間をかけて相談に乗った。

地域の薬局としての役割を少しではあるが果たせたのではないかと考えている。

考察

薬局が地域での役割や連携は、簡単にはできず、日々の地道な活動が**プラットホーム**になる。

コロナ禍では、個人の薬局としてできることは限られた。出来ない言い訳を探すなら、できる方法を探す方法がよいと考えた。更に**様々な業種や地域と繋がりをもち、相談しながら対話すること**で、患者や地域に貢献できることは格段に増えることを実感した。

今後は地域の方が健康で幸せに暮らしていく為に必要な薬局の在り方を**地域の薬局同士や業界全体に広げて**考えて行くべきではないかと強く感じた。

第10回 コミュニティファーマシーフォーラム ポスター発表 利益相反開示

演題発表者名：厚川俊明 川端なつみ

本演題発表に関し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません